

## 1 法人の概要

### 1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年4月1日	布施高等女学校開校
22年4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更

			東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更
			家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日		家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日		東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日		健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
			健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日		健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日		東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日		東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和3年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

## 2) 設置する学校・学部・学科 (令和3年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科  
国際教養こども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科  
実践保育学科  
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

## 3) 当該学校・学部・学科の学生数 (令和3年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	313
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	97
	実践保育学科	96
	介護福祉学科	131
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	602
東大阪大学柏原高等学校	普通科	559
東大阪大学附属幼稚園		288
合計		2,086

4) 役員概要 (令和4年4月1日現在)

(1) 役員 理事 7人、監事 2人 (任期: 令和7年7月3日【7-1-1 除く】)

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理事	栗岡二三子
7-1-3	理事	佐伯 勇
7-1-3	理事	筒井 宣興
7-1-1	理事	吉岡真知子
7-1-2	理事	金治 延幸
7-1-3	理事	別所諭貴夫
8	監事	中道 均
8	監事	室井 博子

(2) 評議員 15人 (任期: 令和7年7月3日)

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	山田ゆかり
21-1-1	村上 靖平	21-1-1	森内 徹
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	出口 和隆
21-1-3	吉岡真知子	21-1-1	新 浩幸
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-1	小林 康行
21-1-3	西田 眞男	21-1-1	南方 孝一
21-1-3	金治 延幸	21-1-3	宮里 円香
21-1-3	三浦 常治		

5) 教職員概要 (令和3年5月1日現在)

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	13	10	23
東大阪大学	25	25	15	9	74
東大阪大学短期大学部	31	37	14	5	87
東大阪大学敬愛高等学校	45	11	6	7	69
東大阪大学柏原高等学校	48	11	10	11	80
東大阪大学附属幼稚園	18	2	6	5	31
合計	167	86	64	47	364

## 2 令和3年度事業計画における進捗状況等

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染状況により、2年度に引き続き、修学旅行や体育祭、文化祭、伊勢徒歩旅行など大きな行事が中止となった。日帰りの校外学習をしたり、ミニ運動会をしたり、展示制作をしたり、工夫してできる範囲で行事を実施した。

9月にはアスリート寮でクラスターが発生し、また1月後半から2月前半にも寮の感染生徒数が増加し対応に追われたが、保健所や家庭と連携し、隔離部屋や別棟のクラブハウス等を活用することで、何とか乗り切ることができた。また寮で感染症等が発生した時の「対応マニュアル」を作成することができ、これを活用して第7波の対応はスムーズに行うことができた。

留学生は、新型コロナの影響でほとんど入国できなかったが、敬愛高校と役割分担をしたり、年間を通じてオンライン授業を実施したりして対応することができた。この時の成果を、国際事業以外のところでも活用していきたい。

### 1. 全ての生徒が夢中になって学べる授業づくり

令和4年度からの新学習指導要領実施に向け、上記のテーマで授業研究を推進した。その中でも特に新たに立ち上げたICT教育推進部を中心に、iPad等を活用したICT教育に力を入れた。

#### (1) ICT教育の推進

##### ①ICT校内研修

iPad導入学年では、実技教科を除くすべての授業でiPad活用を義務付けるために、教員対象のICT研修を年間16回実施し、ICTを活用した研究授業や授業見学も12回実施することができた。

##### ②学習アプリ<Monoxer>の運用

- ・5教科でMonoxer活用を必須にし、定期考査に反映
- ・長期休業中や臨時休校中の課題としてタスクを配信
- ・オープンスクールで参加者にMonoxer体験を実施
- ・提出物として扱うことで、本校の伝統的な提出物指導とうまくマッチし、生徒の取り組み回数が大幅に向上した。
- ・Monoxer社のホームページで本校の取り組みが活用事例として記事になり、ICT教育ニュースサイトにその記事が活用事例として紹介された。
- ・今後の課題としては、教員側が生徒の取り組みを管理する必要があることや、教員の更なるスキルアップ等があげられる。

##### ③<Google Workspace>の運用

- ・Google ClassroomとGoogleドライブの利用が主
- ・臨時休校時に、クラスや部活動でGoogle Meetを使い、オンライン朝礼等を実施
- ・2年ADコースでは、個人端末を利用したMeet補習が実施された。
- ・iPad導入学年だけでなく、全学年にGoogleアカウントを発行したことで、臨時休校時などの対応につなげることができた。

- ・学年通信をデジタル版で発行するなど、新たな取り組みが可能になった。
- ・調理コースでは、自宅で調理した料理をデータで提出できるようになった。

#### ④<スタディサプリ>の運用

- ・10～12月の無料期間を利用して、試験的に運用をスタート
- ・授業中の利用だけでなく、学習課題としても配信
- ・到達度テストを実施することで、各自の苦手を把握
- ・受験を考える生徒は、自主的に動画を視聴
- ・成果としては、Monoxer では数式を伴う問題作成は困難であったが、スタディサプリでは既に問題が作成されているため配信が簡単にできた。
- ・入学前課題を購入することなく、スタディサプリの中学内容からテキストを利用することができた。
- ・提出率は他校にないほど高く（ほとんど100%）、リクルート担当者からも驚きの声が上がっている。本校のアピールができるように連携を進めたい。

#### ⑤<Pages・Keynote>の活用

- ・府立が導入している Chrome Book 等他のタブレット端末ではなく、「iPad」を導入しているポイントとして、Apple の標準無料アプリである上記を利用した授業を今後は展開していく。
- ・上記アプリを活用して、ポスター作りや授業内容まとめシート作成、プレゼン資料作り等、生徒が「楽しい」「夢中になれる」授業を創造していく。

### (2) 主体的・対話的で深い学び

- ・ペア学習やグループ学習の活用
- ・生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養をめざした。
- ・自分の考えをまとめ、発表・表現する力の育成
- ・自尊感情を育てたり、達成感が得られる授業をすべての教科でめざした。
- ・観点別評価と指導の一体化が今後の課題

## 2. 入試広報活動の強化

ここ数年、入学生徒数が募集定員を大きく下回っている現状から、入学生の確保を重点課題として取り組んだ。

### (1) 入学者の獲得目標

入学者数の目標値をまず200人以上とし、スポーツで100人以上、それ以外でも100人以上をめざした。スポーツはアドバンストと兼ねたものを合わせると目標を達成できたが、他のコースが伸びなかった。特にキャリアアップ、調理、美術コースが激減しており、またアドバンストもスポーツを除くとごく少数で広報活動の見直しが必要である。また地区別の獲得目標も掲げたが、達成することができなかった。

### (2) 入試広報部の総括

### ①成果

- ・タブロイド紙の発刊（年2回）で、学校の様子や進路状況を中学校に伝えることができた。
- ・アシストコースの強化として、「アシストコース独自のチラシ」作成に取り組んだ。「面倒見の良い柏原高校」のイメージが出せ、非常に有効であった。
- ・コロナ禍の中でも、中学生への高校体験授業、中学校への体験授業を実施できた。

### ②課題

- ・調理コースや美術コースでは、伝える教育方針や教育内容をもう少し具体的にすべきであった。また調理・美術コースの知名度は低い。体験授業の回数を増やしたりコンテストを主催したりして、積極的に知名度を上げていく必要がある。今年初めてのコース卒業生を出し、大阪芸術大学に7名、東大阪大学短期大学部へ4名、専門学校等への進学実績などをアピールしていく。
- ・アドバンストやキャリアアップについては、戦略性を持たせるのが難しい。より特色化を進めるとともに、「面倒見の良い柏原」のイメージを大切にしつつ、中学校との連携を深める。
- ・強化クラブとの連携や、母校訪問等新しい取り組みを考えていく。

### (3) SNS の活用

- ・部活動のインスタグラム活用やホームページの活用

### (4) 改革プロジェクトの立ち上げ

本校の入学者数を増加させるため、1月に改革プロジェクトチームを立ち上げた。短期集中でプロジェクト会議を実施し、今やること、今年中にやるべきこと等具体案を検討し、提案している。3月までに9回の会議を重ね、以下のことを検討・提案してきた。今後は中・長期的な目標も検討していく。

#### ① 新コースの立ち上げ

- ・クラブに縛られず、教育課程内でいろいろなスポーツを楽しむコース「キャリアスポーツコース」を創設する。
- ・スポーツインストラクターやキャンプインストラクター等スポーツに関する資格を取得し、スポーツ系大学や専門学校進学、または地域の指導者等をめざす。
- ・従来のスポーツコースは、キャリアスポーツとの違いを強調するために「アスリートコース」に名称変更する。

#### ② 調理コース・美術コースについて

- ・中学生の体験授業を5月から10月まで毎月実施する。地元を中心に案内していく。
- ・大学や専門学校に指定校がある等、入学特典があることをアピールする。
- ・調理コースでは、生徒が作ったお菓子や無料ランチ券を手土産に母校訪問をしたり、保護者向けの料理体験を実施する。
- ・美術コースでは、中学生を対象としたコンテストを実施したり、学校紹介のポスターを作成したり、作品の展示ブースを作成したりする。

#### ③ キャリアアップ、アシストコースについて

- ・ 選択講座の幅を広げていく。
- ・ 多様な職業体験や農業体験を実施する。
- ・ 地元の企業や産業と連携する。
- ・ 就職率 100%をアピールし、「就職するなら柏原」という魅力づくりを進める。

④ その他

- ・ ホームページをバージョンアップし、ペーパーから SNS 中心の広報に切り替えていく。

### 3. 生活指導の徹底と生徒会活動の充実

① 問題行動の未然防止

普段から挨拶、身だしなみ、頭髮、遅刻、欠席等の「凡事徹底」を図ることにより、生徒指導案件は昨年度と比べ大幅に減少した。

② 迅速な対応と粘り強い指導

問題事象への迅速な対応と外部機関との連携、また保護者への報告・連絡等、家庭と連携した指導により懲戒件数も減少している。

③ 退学・転学の防止、減少

生徒理解に基づいた厳しくも温かみのある指導により、退学や転学をする生徒を昨年度より 9 名減らすことができた。スクールカウンセラーとの連携やケース会議を充実させることで、さらに減少させたい。

④ 生徒会活動の充実

コロナ禍により、行事の中止が相次ぎ活躍できる場が少なかったが、オープンスクールへの参加や、合理性を欠く校則の見直しなど生徒会執行部を中心に実施することができた。今後は、楽しい行事の創造や中学校訪問など活躍の場を増やしたい。

### 4. 進路指導の充実と進学実績の向上

今年度も学校紹介の就職においては、大手の企業から中小企業まで多様な就職状況で、内定率 100%を維持できた。進学においても奈良県立大学や有名私立大学への進学生も輩出できた。これは、2年での体験授業やポスターセッション、3年での就職勝道場、労働条件や金銭教育の講演会など「進路研究」での指導、選択授業で「漢字検定」・「英語検定」・「数学検定」などを受講し、資格を取得したことにより、自己肯定感が向上したことなどが要因と考えられる。

今後、コミュニケーション力やプレゼン力が益々必要になる傾向の中で、授業の中でもこれに対応できる能力を築く授業体系を構築していかなければならない。

57 期生の進路状況（生徒数 208 名 未入国生を除く）

就 職			進 学			その他	
学校紹介	公務員	縁故就職	大 学	短 大	専門学校	就労支援 施設	アルバイト、未定

21	6	15	97	7	52	2	8
----	---	----	----	---	----	---	---

主な就職先 : ALSOK 近畿 (株)・(株) 十川ゴム堺工場・くら寿司 (株)  
 (株) 三供システム・(株) 三重工業・山崎製パン (株)  
 自衛官候補生・大阪府警・

主な進学先 : 奈良県立大学・中央大学・関西大学・近畿大学・京都外国語大  
 龍谷大学・追手門学院大学・阪南大学・桃山学院・東大阪大学  
 トロント大学 (カナダ)

### 3 財務の概要

別添 令和3年度 資金収支計算書  
 事業活動収支計算書  
 貸借対照表  
 財産目録  
 監査報告書 参照